

まちづくり出前市長室（里浦地区）開催記録

1. 日時：2013年5月23日（木）19時～21時
 2. 場所：里浦公民館
 3. 参加者：市民（約40人）、市関係者（市長、副市長、政策監、企画総務部長、市民環境部長、危機管理局長、危機管理課、市民協働推進課）
-

1. 里浦地区自治振興会 会長あいさつ

2. 市長あいさつ

3. テーマに基づく意見交換（テーマ：「里浦地区のまちづくり」）

会長 里浦地区のまちづくりについて、現在行っている事業について、説明させていただく。（※パワーポイントを用いて説明）。大きく分けて、①生活環境整備事業②健康づくり事業③安全なまちづくり事業④地域交流事業の4つである。鳴門市から、63万2000円の補助金交付を受け、それを予算に繰り入れて事業を進めている。

まず、①生活環境事業として、里浦地区墓地の駐車場の整備について報告したい。土地の所有者は鳴門市になっている。昔に建てた小屋が壊れたまま放置され、その上には木が茂っていた。放置自転車や不法投棄があり、台風の際には、トタン屋根が飛び、住民からも「どうにかできないか」との声が出ていたことを受け、市民協働推進課に相談した。何十年も前に建てられたもので、誰が建てたのかよく分からず苦労した。「撤去してほしい」との看板を立てたが、所有者が現れなかったので、自治会・住民・市民協働推進課・クリーンセンターで協働して、撤去作業に取り掛かった。重機は、住民から貸していただいた。有効利用できないかと考え、参拝者用の駐車場として整備した。

②生活環境整備事業では、不法投棄がかなり多くあり、廃棄物対策課より、「不法投棄監視パトロール隊を結成してはどうか」との話があり、看板などを市から支給していただき、平成24年3月28日に36名で結成式を行った。山の下に不法投棄防止の看板を立てたが、ひどい場合は、立てた看板のすぐ下にも捨てられていた。回収作業は、クリーンセンターから車を出していただき、全部で9回の回収作業を行った。市から支給された18枚の看板も立てた。回収作業後に、また捨てられることを防ぐため、不法投棄防止用ネットの設置も行った。3回作業を行い、約110メートル設置することができた。住民の方から、「きれいになった」とよろこびの声もいただき、怪しい車が走っていたら、その情報も周辺の方から寄せられるようになった。このように、住民の意識向上にもつながった。

続いて、公園整備事業だが、里浦親子公園については、まず、看板を新しいものに
取り換え、除草作業を行った。2か月に1回くらいは、地域の方々に参加していただき、
除草作業を行っている。

なかよし公園も、新しく看板の設置を行い、遊具も錆びていたもので、塗装用のペンキ
と刷毛は市から支給していただき、地域の方々の協力で塗装を行った。花壇には、花苗
を植え付け、除草作業も行った。

不動遊園地についても、何十年間も同じ看板だったので新しくした。また、遊具も
老朽化していて、とても使える状態ではないので、クリーンセンターの協力を得て、
除草と遊具の撤去作業を行った。撤去作業をした後、子ども達にも来てもらえるような
状況になった。

健康づくり事業では、町内ウォーキングを行っている。人丸神社まで歩いて、避難
場所の確認を行った。

安全なまちづくり事業では、防災に向けた取り組みとして、避難路の整備を行った。
里浦小学校の屋上に柵を作っていただくなど、市にも色々としていただいた。人丸神社
の裏山に広場があり、その整備作業を行い、竹製の手すりを取り付けて、登って
いけるようにした。津波避難訓練や、里浦小学校での防災訓練、婦人会の協力を得て
炊出し訓練なども行った。消防署からも来ていただき、救命訓練を行った。また、
「いのちを守ろう集会」を里浦小学校で行ったほか、町内のカーブミラーの清掃も
行った。

地域交流事業では、婦人会に協力していただいて、敬老のつどい・芸能交流会や、廻
り踊り・地藏盆踊りを行った。

以上、主な事業について紹介させていただいた。

市長 墓地の整備については、担当課から聞いており、市が目指している「市民協働」が、
目に見えてできた例だと思っている。「市が整備するもの」と考える地域がある中で、
「市はどこまでできるか、地域はどこまでできるか」といった考え方に立ち、色々な
話し合いの中で、このようなことが達成できたことは、今後の一つの成功事例になると
考えている。地域づくり事業活性化補助金をやりくりしながら活用していただいている
ことはありがたい。

健康づくり事業として、町内ウォーキングで、体を動かしながら、防災活動へ結び
つけていこうと、一石二鳥、三鳥の取り組みをされている。

これからは、健康づくりが重要になってくると思っている。毎年、医療費が2パー
セントずつくらい上がっている。これは、医療費全体の割り戻しをした中で、保険料が
決まるので、保険料を抑えるためには、皆さんが健康になっていくことが重要である。

また、これから爆発的に増えていくと考えられるのが、認知症である。想定の数以上の
数が出ることも考えられるので、認知症にならないためにはどうすれば良いのか、

また、認知症になった人に対してはどのように接すれば良いのかも、合わせて考えていく必要がある。いつ、誰が認知症になるのかわからない。市でも、キャラバンメイトという講座があるので、一度聴いていただけたらと思う。市職員は、キャラバンメイトの講座を受けており、私も講師として、何度か話をしているので、ぜひ参加してほしい。

安全なまちづくり事業では、人丸神社の裏での避難路整備作業は、私も行かせていただいた。先ほどの、墓地の整備と同じく、協働作業だということを認識させていただいた。

また、公園の整備については、市に任せるといふ地域も多い。そんな中、不動遊園地の整備をしていただいたことは非常にありがたい。なかよし公園の看板も新しくしていただき、私も実際に見させていただき、とてもありがたく思っている。

地域交流事業について私が感心するのは、老人会などでの交流が非常に和気あいあいとしていることである。高齢者が、色々な方と接して話をする事は、交流とともに健康づくりにもなる。市では、生涯学習まちづくり出前講座として色々講座を用意しているので、利用していただきたい。共に考え、学んでいけると思っている。

最後に、廻り踊り・地蔵盆踊りだが、伝統のあるものなので、ぜひとも残していきたいと思う。後継者がなかなかいないのであれば、DVDなどに録画し、保管しておいていただきたい。鳴門は、県下でもお祭りが盛んで、各地域でお祭りがあり、伝統的につながっているところなので、それを絶やすことなく続けていただきたい。後継者問題や新興住宅の住民の参加など、難しい問題はあるが、ぜひとも続けていただきたいと思っている。

市と地域がともに解決していくべき問題点は、自治会・町内会の組織が高齢化してきているということと、そこに若い人が入って来ていないということである。これは、老人会にしても、その他の団体にしても同じである。また、新興住宅に住んでいる人がなかなか入ってくれないということもある。

日赤の社費を集めてくれている地域があるが、「なぜ社費を払わなければいけないのか」と言われることがあるそうだ。日赤の効果を、お金を払わずして受ける方もいるし、町内会に入らずとも、何らかのサービスを受けている方もいるが、まんべんなく負担していただくことも考えていただきたい。そのあたりが、今後の大きな課題になってくると思っている。

里浦地区では、非常に素晴らしい活動をされていると思う。これからも鳴門市の地域振興のため、トップクラスの活動を続けていただきたい。そのためには、市とどんどん力を合わせて、協働で進めていけたらと考えているので、これからもよろしく願いしたい。

4. 地域の課題について意見交換

市民 地域の課題ということで、一点お願いがある。ナンカイテクナートの北側に鳴門市の天然記念物（岩つきのウバメガシ）があり、その横に用水路がある。ここには、生活用水や雨水、落ち葉など、色々なものが流れてくる。しかし、流れが滞っていて、天然記念物がある場所としては、あまり綺麗ではないので、清掃をお願いしたい。

市長 先日、現場を見に行った。本日、5月23日から整備を行っているのですが、ご要望にはお答えできていないのではないかと思います。毎回、綺麗な整備はできないかもしれないが、市の天然記念物がある場所なので、その都度相談いただいたら、対応させていただこうと思っている。

市民 里浦町の津波一時避難場所として、人丸神社の境内と、そこからさらに高い場所を、避難場所として確保させていただいた。避難場所に上るためには、階段を使って上る方法と、スロープ（坂道）を使って上る方法がある。スロープを使うルートについては、十二神社の方から上ることができるが、アスファルトで舗装されており、木の根がアスファルトを持ち上げてでこぼこの状態で、乳母車を使って避難した方が、非常に苦労された。健康な人が避難する場合でも、苦労されたので、何とか整備していただきたい。

また、地域の方や総代の方々が協力して、高台にある境内に防災倉庫を作った。平地にも防災倉庫があるが、高台にも設置した。そこに行くために、スロープのルートを通るが、途中で鳥居があり、軽トラックがぎりぎり通れない状態なので、盛り土をして平らにするなどしてもらえれば、通れるようになると思う。この2点について、ご検討いただきたい。

市長 現場を確認させていただいた。人丸神社の整備に行った際にも同じことを言われた。ここは元々国有地（里道）だったが、平成17年に市の管理になった。このような道路は、鳴門市のいたるところにあり、市では、里道の整備は、基本的にはしていない。写真を見てもお分かりになると思うが、非常に狭いので、拡幅しなければ通れない。また、道も崩れやすくなっているので、補強しなければ通れないし、拡幅工事をする際には、隣の方の土地も提供していただくようになるかもしれない。市道であれば、優先的に対応させていただくが、里道については、鳴門市が土地を買収して、道路を拡幅するというやり方は行っていないので、「厳しい」という答えになる。

また、この場所は里道との境界が確定できていないので、関連する所有者との話し合いができなければ、進まないということも問題である。

鳴門市から避難路整備のための助成金を出しているのですが、ご活用いただき、一番有効に使えるような形で、避難路を改良していただきたい、というのが今日の段階での答えになる。

会長 市の助成金については、申請したいのでご協力よろしくをお願いしたい。

「市の管理」とか「国の管理」などと言われても、市民にはわからないので、そういったことを含めて、相談できる窓口があれば教えていただきたい。

市長 国有地と述べた場所は、市へ管理が移譲されたので市有地である。国から受けた里道を全て改修していくことになれば、膨大な費用が掛かるので、ルールづけをしている。先ほども述べたように、道路を拡幅する際にも土地を寄付していただくことが必要になるので、「厳しい」と言わなければならない。

予算枠の中で整備するので、市道に使うことが優先される。

会長 自治会等で要望していけば、前に進む可能性はあるのか。

市長 今の話とは異なるが、ひとつの例として、鳴門市ではこのような方法もとっている。

「農道を拡幅してほしい」との話があった場合、市から隣接地の所有者に土地の提供を呼びかけて断られた際、地元の人から話をしていただいて、全部ではないが必要な土地を提供していただいた。このような対応は、現実に行っている。

市民 避難路は重要だと皆さんが言っている。そういうことを気にしていただきたい。

市長 おっしゃるとおりである。ただ、ルールがなければならない。避難路としての優先順位も必要である。わずかではあるが、助成金制度もあるので活用していただきたい。助成金を使って、「絶対、こんなことはできない」という話ではないので、市も助成金により何がどこまでできるか、ということ相談にのりたい。

色々を見せていただき、課題も多いと感じた。土地が絡む問題であれば、隣接する所有者の方との境界立会が必要になる。今すぐに取り掛かることとなれば、助成金を使っていただくのが一番良いと思う。

市民 会長から、里浦町の活動報告を発表していただいたが、里浦町はだんだんと美しくなってきた。下水路の臭いも少なくなってきた。ただし、尼塚のところの市有地に生える雑草が目につくので除草をお願いしたい。

市長 尼塚のところは、消防本部の管轄になる。先日5月15日に一回、草を刈った。今日、現地を確認に行った。刈ってもすぐに生えてくるので、何か抜本的にできたらと思うが、隣は農地になっているので、除草剤などの対策は取れない。職員が草を刈るなどできるだけ対応させていただき、きちんと管理をしたい。

会長 単純に考えると、アスファルトを敷いて、駐車場にすれば良いと思う。草を刈っても、梅雨の時期であれば、1週間か10日くらい経つとまた生えてくる。

市長 消防本部が管理しているので、アスファルトを敷いたりできるのか確認する。また、観光振興課の看板も立てている。尼塚は、清少納言の墓という言い伝えもあり、観光資源の一つになっているので、そのような面からも何かできたら良いとは思っている。この問題は、一旦、持ち帰らせていただき考えたい。

市民 里浦最終処分場について、現況と課題等をご報告いただきたい。

市長 処分場は里浦町の皆様に色々ご協力いただいて、稼働させていただき、平成12

年に閉鎖をした。当時から、ゴミ処分場対策協議会の皆様とはお話をさせていただいている。その都度、協定書を巻きなおすということが繰り返されており、抜本的な解決としては、処分場自体を全て取り除いてしまうということが解決方法だと思っており、そのためのお話を色々行ってきた。東日本大震災で、あれだけの津波被害があり、また、南海地震が起こる可能性も高くなってきた。あのままの状態が良いということは、決して思っていない。

全てを撤去するという話になった場合、費用はどれだけ掛かるのかということが問題になる。処分場の埋設量は、道路から上の部分で20万立米、下には13万立米ほどあり、合計で33万立米あると言われている。上の部分だけを取り除くのに、10トンダンプで3万台分、下の部分も合わせると、5万台分になる。東京ドームが、124万立米の容積であると言われているので、その4分の1の量のごみがあるということになる。

美馬市拝原というところに、同じような事例があり、移転するのにどれくらい費用が掛かるのか調べたら、埋設量が約11万3000立米で鳴門市の約3分の1くらいである。それを取り除くのに、処理費や運搬費、撤去費を含めて、約60億円掛かると言われている。鳴門市の場合は、ダンプ3万台分を取り除くのか、5万台分を取り除くのか、どれだけの距離を運ぶのか、ということで掛かる費用は違ってくる。県内の山城町に運ぶのであれば、運搬費だけでも、30億から40億円掛かってくる。美馬市拝原の事例から考えても、鳴門市の場合は100億円以上は掛かるのではないかと思われる。

今、鳴門市全体の予算が200億円くらいである。どうするのかということは、これから考えていかなければいけない。具体的な話を進めていかなければいけないと思っているが、単純に取り除くというだけで、100億円以上掛かるので、現実的な解決策として皆様に納得していただけるようなお話はできないのが現状である。また、地震が起きた時にはどうするのかも考えなければいけない。申し訳ないが、財源を含めて、皆様に納得していただけるような話は今の時点ではできない。

市民 津波が来るまでに避難が完了する時間は、20分前までということにしている。

20分前までとした場合、里浦南地区としては焦りが出てくる。鳴門市が現在行っている、地震・津波等の防災対策の進捗について、また、今後の防災対策をご説明いただきたい。

市長 以前から、鳴南地区、大津地区の一部では、高いところがないと言われている。里浦小学校に行くのにもかなり時間が掛かると言われていた。今回、「余裕をもってこれくらいの時間で避難を完了してください」とのお話をさせていただいている。

徳島県の浸水想定ができた時に、「避難困難地域」が確定して、何らかの避難タワーや防災センター、もしくはそれに付随するもの、それに代わるものについて考えていくと

お話をさせていただいた。説明不足で地域の方に、去年の10月にすぐにその話がスタートすると勘違いさせてしまった。市としては、予算付けをして進めていこうとしている。

タイムスケジュールで言うと、3月に防災関連のコンサルタント会社と契約を交わした。まず専門家に委託して、津波避難場所の基礎調査と、津波避難シミュレーションを行い、7月には、里浦地区の皆様とワークショップで話し合い、地域を歩かせていただく。

そこで、皆様の意見を吸い上げ、具体的にどのようなものを作っていくのか、どのように財源を充てていくのか、話をさせていただくことになる。津波避難計画の見直しを含めて、里浦町にはどこにどのようなものが必要なのか、ということを示させていただく。津波避難計画の見直しについては、今年12月には議会に報告できるのではないかと考えている。こうしたことから、具体的に、鳴南地区の皆様とお話をできるのは、7月になると思う。

市民 津波避難困難地域の認定ができたとする、鳴南地区には、いつごろ一時避難場所ができる予定か。

市長 津波避難タワーを造るとして、活用できるのは津波が来た一時だけである。「それではもったいないので、松茂町にあるような、防災センターの建設を」との声もある。もう一点は、「消防分団や集会所も非常に老朽化している。それも含めて何か役に立つようなものを建ててはどうか」との意見もある。そうした声も聴かせていただいているので、何を造るかによって、時期が全然違ってくる。7月に意見集約をさせていただいたうえで考えさせていただきたい。

市民 住民の意見は、十分に聴いてもらえるということか。

市長 もちろん、十分聴かせていただくが、8階建てのタワーを建てるなどといったことは難しい。

市民 里浦町でも南地区は、だんだん子どもが少なくなっている。ぜひ、鳴門市には、地域が活性化できるような、まちづくりにもつながるようなものを造り上げていただけたら、活性化していくのではないか。

市長 地域の方も見ていただきたらと思うが、和歌山県にらせん階段になっているビルや、防災センターのような施設や複合施設、土を盛って山にした公園のようなものもある。里浦町の場合には、そのようなもので耐えられるのかどうか分からないが、色々な意見を出していただいて、先進地にも問い合わせをするなどしていきたい。

ただ、鳴南地区だけではなく、隣の長江地区も同じ状況である。橋が壊れてしまったら、長江との通路が遮断されるので、鳴南地区だけではなく、その一帯についても考えさせていただく。7月のワークショップで十分に話を聞いて、検討させていただくので、ご意見をいただけたらと思っている。

市民 県の浸水想定地域を示したマップをいただいているが、里浦地区の中に一部浸水が想定されない地域があるように色分けされている。里浦は、砂だまりなので、「浸水しないところがあるのではないか」と思われるかもしれないが、高台ではないので、県に浸水しない場所があると判断されては困る。砂だけなので、津波が来たら浸水して全部更地になる。浸水しないところがあるというのは間違っているのでは、市から県へ言ってほしい。

市長 地図だけを見て、全てその通りになるとは、県も思っていないはずだし、市も思っていない。ただ、「ある一定の条件の中ではこういうことになる」ということを示す資料の一つだと思っている。

鳴門市は、塩田を埋め立てた土地が多い。地震が起きた時に液状化現象を起こす場合もある。建築の専門家から「避難ビルを一つ認定するにしても、どれだけの杭が建物の下に入っているのか、ということを見極めなければならない。ただ単に地上7階・8階建ての建物を指定するのではなく、その建物の基礎部分まで見ておかなければ倒れてしまう。そこまで見て、津波避難ビルの指定をしなければならない」と助言があった。今後、色々なことを考えながら対策していくので、7月に紹介できたらと思っている。

市民 路線バスについて、質問したい。粟津から鳴門郵便局前までのバスは、小型にはなったが、運行していただいている。通勤・通学に、かなりの方がバスを利用している。鳴門市としては、今後、この路線バスをどうするのか。

市長 地域バスとして、残していくということが基本になる。スクールバスの機能が必要なので、そのまま残すと約束した。地域バスとして、小型になったが運行している。その約束は、続けていくつもりである。

市民 素晴らしい先輩方が自治会を先導されて、それに続いて私たちも活動している。里浦地区には、まちづくりに真剣に取り組んでいる方々が大勢おられて、今の会長に続く方が出ると思う。

また、市政に関するテレビ広報番組では、市長が真剣に取り組む姿勢がひしひしと感じられる。

私は、ゴミ（最終処分場）の問題で、役員という重責を担って、立場上、どれだけの力を尽くせるかと考えた時に、財政面や風評被害、また、他の地域に被害が出ないか、将来、自分たちの息子や孫たちに迷惑が掛からないか、ということを考えながら、市長と話し合いを重ねてきた。市長をはじめ、市の方々には、色々なことに真剣に取り組んでいただいている。

里浦町には農業、漁業、大塚製薬など良いところがたくさんある。ゴミの問題にしても、震災で被害が出ないように、自治会の方々と共に考えていきたいので、力添えをお願いしたい。ゴミ問題については、一番気になっているところなので、よろしく願いしたい。

市長 市長に就任してからの3年間で、対策協議会の方々と話し合いをする中で、私自身、東日本大震災が発生してからとそれ以前では、考え方が変わってきた。いつ、地震が起きるのかわからないという状況の中で、あの処分場が、本当に地震に耐えられるのか、と考えた時に、最悪のことを想定した場合にも、なかなか妙案が出て来ないというのが事実である。現状の制度の中で、どのような対応ができるのか、絶えず考えてきたつもりである。先ほど申し上げたように、ダンプカー何万台分のゴミがあるとか、そういう現実的な数字を見つめた時に、掛かる費用がどれだけで、その財源をどのように埋めていくのかということを考えている。ただ、今の鳴門市で、100億円を超えるような事業を来年からすぐに行うことは難しいというのが現実であり、厳しい現実もお伝えしなくてはいけない。今あるものを活用できないかということは常に思っているのですが、これからも一緒に考えさせていただきたい。現状としては、これ以上はお答えできない。

市民 公民館のイスや机が古くなっており、子供が怪我をしたら危ないので、少しずつでも新しいものに取り換えてもらえないか。

市長 きちんと考えさせていただいて、「検討する」という答えだけで終わらないようにしたい。

市民 最終処分場に、大きなスピーカーを取り付けて、地震速報を流すことはできないか。畑にいたら全然聞こえない。

市長 防災行政無線に切り替えさせていただいているところである。今は、消防の無線だが、聞こえない地域がある。東日本大震災以降、全ての無線をデジタル化しなければならなくなり、市全体で計画を立てて、設計段階に入っているところである。また、昔と違って、家の中が密閉状態なので、テレビをつけていたらなかなか放送も聞こえない。その時には、モーターサイレンというのを流すことにしている。これは半径1500メートルくらい聞こえるものである。それは、たとえば、畑で作業されていても聞こえるもので、防災行政無線と同時に設置し、平成26年度に完成する予定である。

会長 本日は、有意義な意見交換ができたと思う。市には、今後も、里浦地区の発展に一層のご協力をいただきたい。

市長から「廻り踊りをDVDで録画してはどうか」との意見をいただいたが、今までは録画していなかった。これから録画をすることで、後継者育成につなげていくことができると感じた。

また、人丸神社の避難路の件については、「助成金を使ってはどうか」とのご意見をいただいたので、さっそく申請したい。

公民館の机も、「少しずつでも（新しくしたい）」とさせていただいたので、ありがたい。

私たち住民も、住んでいる地域のことで、できることは自分たちでやっていく。その代わりに、それを見ていただいて、「市も協力しなければ」ということに関しては、

ご協力をよろしくお願ひしたい。

市長 最終処分場の件については、できることから取り組んでいきたい。

私の方から何点かお知らせをしたいことがあるので話しをさせていただく。

1点目は、平成26年3月から撫養港の護岸工事のために、鳴門の競艇場は2年間休場させていただく。建物も新しく建て替えるが、場外発売所の「エディウィン鳴門」については、その間も営業するので利用していただきたい。一番心配しているのは、2年間休場した競艇場は全国どこにもなく、2年休んだ後に、ファン離れが出てくるかもしれないことである。隣の丸亀競艇場も、工事のために休んで、客離れがあったそうだ。

鳴門の競艇場は、数年前には、累積赤字が8億円あったが、今は黒字転換して、累積赤字も4億円くらいまで減ってきた。近々、決算が発表されるが、24年度も黒字だった。競艇には今まで助けてもらっているのだから、ある程度まで存続していきたい。今まで、競艇から市に入った金額は約900億円である。それは、学校やプール、文化会館などの建設に使われた。市役所は古いままであるが、耐震化工事を全ての小中学校、幼稚園、体育館、公民館で行いたいのだから、ご理解よろしくお願ひしたい。

もう1点は、「今使っているゴミ袋が、使いにくい」というご要望があり、形状変更しようという話になった。先日、200人にアンケート調査を行った。今の袋が「便利かどうか、使いやすいか」というアンケート調査の結果、「不便だけど変えなくても良い」という結果になった。アンケートに袋の値段をどうするかを書いていなかったのだから、後日、電話で袋の値段は以前と変わらないことを伝えたら、「値段が変わらないのであれば、新しい袋（取手付き）に変えてほしい」という結果になった。

今年の7月頃から、袋の形を取手付きに変更するので、使っていただきたい。今使っている袋も引き続き使っていただけるのだから、よろしくお願ひしたい。袋の形は変わるが、容量は変わらない。

最後になるが、鳴門市は5月の最終水曜日に毎年チャレンジデーに参加している。皆様には、15分間体を動かしていただいて、ご協力していただきたい。今年の対戦相手は、人口6万7000人の埼玉県秩父市である。同市は去年、阿波市と対戦している。阿波市は負けてしまったのだから、今年は鳴門市が勝ちたいと思うのだから、よろしくお願ひしたい。

本日いただいたご意見を、今後の市政に反映させていきたい。

(以 上)